



開催報告

開催報告

2023年3月16日（木）～17日（金）に、東京大学大気海洋研究所（AORI）と海洋研究開発機構（JAMSTEC）の共同で、JAMSTECが運用する研究船等を利用し、全国の研究者・技術者・学生等により行われた研究・技術開発の成果報告会として、「海と地球のシンポジウム2022」を開催しました。参加登録者数は307名、発表は一般発表25件、ポスター発表37件、パネルディスカッション1件が行われ、多くの皆様にご参加いただきました。ご参加くださいました皆様、発表くださいました皆様、誠にありがとうございました。

⇒ [海と地球のシンポジウム2022プログラム（こちらからPDF版をダウンロードできます）](#)

⇒ [海と地球のシンポジウム2022発表課題一覧・要旨集（こちらからダウンロードできます）](#)

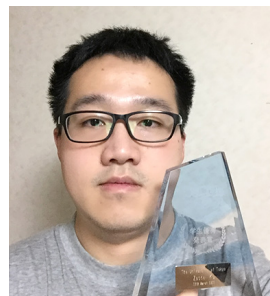


学生優秀発表賞

「海と地球のシンポジウム2022」では、学生の研究活動を奨励するために、学部生・大学院生を対象として、研究や発表内容に優れた方を表彰しております。今回の審査の結果、受賞者が決まりましたのでお知らせします。受賞者には記念の盾をお贈りします。おめでとうございます！

受賞者

3/16-14 余 澤庶（Zeshu YU, 東京大学）
海水に含まれる DNA から外洋の小型浮魚類の
分布を探る



6-2 長屋 暁大（Akihiro NAGAYA, 神戸大学）
屈折法地震波構造探査によって明らかになった
鬼界カルデラ火山直下の低速度領域



審査員（あいうえお順）

伊藤幸彦	東京大学大気海洋研究所
江口暢久	海洋研究開発機構
沖野郷子	東京大学大気海洋研究所
小畑元	東京大学大気海洋研究所
亀井雅彦	海洋研究開発機構
川口勝義	海洋研究開発機構
小平秀一	海洋研究開発機構
藤倉克則	海洋研究開発機構
増田周平	海洋研究開発機構

パネルディスカッションのまとめ

シンポジウム2日目の午後（2023年3月17日）にパネルディスカッション「我が国の深海探査機能の
近未来のあり方」が行われました。

そのパネルディスカッションにて話し合われた内容をまとめました。

[パネルディスカッションのまとめ](#)